

ベースラー・パスカルさん
アクティビティ開発支援員



●出身/ドイツ

令和2年5月に着任。地域にある特色を活かしたアクティビティ開発を行っています。

町の自然や土地を活かし、参加者が設定された場面に合わせて体験するLARP(ラープライブアクション

ロールプレイング)や自然に関するイベントのための場所の建設作業を仁多地区で行いました。草や木を伐採するところから始まり、コテージやキャンプ場を自分の手で建設しています。

今後は、令和5年度中の完成を目指し引き続き建設を行っていくとともに、夏にはラープのテストイベントを開催したいです。

Q.協力隊としての活動でうれしかったことは？

地域の皆さんや職員の皆さんが、活動をサポートしてくれること。最初はシャイな方も多いますが、友人がたくさんできました！

伊藤 恭子さん 特産品開発支援員



●出身/帯広市

令和元年4月に着任(新型コロナウイルス感染症の影響による特例により任期延長中)。地域資源を活かした新たな特産品の開発のための活動を行っています。

「弟子屈町産チーズ」の開発に取り組みました。今年度中に完成予定のチーズ工房で製造するチーズを5品目に定め、安定した味を作るため毎日川湯で試作をしました。道内外、海外のチーズを取り寄せ、風味やテクスチャーの違いについての研究も行いました。

今後はチーズ工房の完成に向け、引き続き試作や研究を行いながら、町内飲食店とも連携していきます。

Q.町民の皆さんにひとこと

食べておいしいのはもちろん、家庭でも使いやすいチーズを作っていきたいと考えています！秋頃にご提供できる予定ですので、皆さん楽しみにしてください！

高橋 志学さん シティプロモーション活動支援員



●出身/茨城県

令和3年4月に着任。地域のイメージ向上やブランドの確立のための活動を行っています。

町公式ユーチューブチャンネルを運営し、主に取材・撮影・編集を担当。特に今年度から業務を引き継いだ「ムーブ弟子屈」の制作に力を入れ、7本投稿しました。

動画以外でも、町内の景勝地を利用したロケーションフォト事業を開始し、ウェディングフォトや家族写真など、道内・道外から合計13件の利用がありました。

今後は、公式ユーチューブチャンネル運営とロケーションフォト事業を拡充していくとともに、町内の写真館と連携した事業も行っていきます。

Q.協力隊としての活動でうれしかったことは？

動画や写真を町民の皆さんに見てもらえることと、撮影した方から「撮ってもらって良かった」と言葉をいただいたこと。

川上 棕輔さん シティプロモーション活動支援員



●出身/宮城県

令和2年10月に着任。地域のイメージ向上やブランドの確立のための活動を行っています。

町公式ユーチューブチャンネルを運営し、弟子屈町公式ニュースなど90本以上の動画を投稿し、町の魅力を伝えました。テレビ番組への出演や、道内各地域の講習会の講師を務めるなど、弟子屈町の名前を全国へ広げました。

今後は、公式ユーチューブチャンネル登録者数の町の人口突破を目指し、さらに動画投稿に力を入れていくとともに、空き家問題や住宅不足など、町内課題の解決に取り組んでいきたい。

今後は、公式ユーチューブチャンネル登録者数の町の人口突破を目指し、さらに動画投稿に力を入れていくとともに、空き家問題や住宅不足など、町内課題の解決に取り組んでいきたい。

Q.町民の皆さんにひとこと

この可能性しかないまち、弟子屈町で引き続きいろいろな活動をしていきますので、よろしくお願いします！



特集 まちに新しい風を吹き込み続ける
弟子屈町地域おこし協力隊活動紹介

町では現在11人の隊員が活動しています(うち1人は育児休暇取得中) 弟子屈町地域おこし協力隊活動報告会が3月11日、町公民館で開催されました 令和4年度の10人それぞれの活動と、令和5年度に向けた抱負を報告しました 報告の内容とあわせて、本町の地域おこし協力隊の皆さんを紹介します

問い合わせ先/役場まちづくり政策課政策調整係 ☎ 482-2913(課直通)

そもそも… 地域おこし協力隊って？

人口減少や少子高齢化などの進行が著しい地方において、地域外(都市部)の人材を積極的に誘致し、地域おこし支援や住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その定住・定着を図ることで、地域力を維持・強化していくことを目的とする取り組みです。2009年に総務省によって制度化されました。

2021年度には、全国1,085の自治体で6,015人の隊員が活躍しています。任期はおおむね1~3年で、具体的な活動内容や条件は、募集自治体によりさまざまです。

町では2015年に1人目の協力隊員が着任し、これまでに12人が卒業しています。



ワイン事業の取り組み



SDGs講習会の実施



プールでの指導



アクティビティ開発



移住体験プログラムの実施

ほうざわ な お こ
寶澤 奈緒子さん 水泳指導支援員



●出身/北広島市
令和4年5月に着任。地域住民の健康促進に向け、川湯屋内温水プールで水泳の指導を行っています。
プールでは7教室の指導員として、子どもから高齢者までの皆さんの指導にあたりました。音楽をかけて体を動かす「エアロビ教室」なども新たに始め、利用者の皆さんが楽しみながら継続して健康増進に取り組めるようにしています。

来年度は引き続き各種プール教室の指導を行っていくとともに、新たに福祉分野とも連携した取り組みを行いたいです。

Q.弟子屈町の魅力はどこだと思いますか？

移住者とも距離が近く、とても優しいところ。プール利用者の皆さんともすぐに仲良くなれました。

きりゅう な つ こ
木龍 奈津子さん ワイン事業推進支援員



●出身/札幌市
令和4年5月に着任。弟子屈町産ワイン開発のための活動を行っています。
ワイン「葡萄色の旦(えびいろのよあけ)」の原料となるブドウの栽培管理、ワイン醸造、ワイナリー事業計画に取り組みました。現在醸造を委託している2つの醸造所では、全醸造行程の経験を積みました。ワイナリー建設の関係では、他市町のワイナリーの視察や機器の選定を進めました。

今後は、引き続きワイナリー事業、スパークリングワインなどの商品開発、ブドウ畑の拡大などに取り組み、更にそれらが持続していく仕組み作りをしていきます。

Q.実際に弟子屈町に暮らしてみたいかがですか？

景色と温泉がとてもよく、楽しいです。毎日温泉とサウナに入っています！

しま ゆ か
嶋 裕香さん SDGs推進活動支援員



●出身/東京都
令和3年9月に着任。持続可能な観光地域づくりの推進・普及のための活動をしています。
「持続可能な観光地向け」の国際基準や日本の基準について知るために各種研修に参加しました。研修などで学んだ知識と、「持続可能な観光地向け」の日本基準を用いて策定された「弟子屈町観光振興計画」に基づき、町民の皆さんを対象としたSDGsワークショップを2回開催。SDGsの視点から町の魅力探しを行いました。
今後も、誰でも気軽に参加できるSDGsワークショップ・観光振興計画ワークショップを開催し、それらの取り組みを普及していきます。

Q.弟子屈町の魅力はどこだと思いますか？

地元の方と移住者の交流が活発！また、その交流にも発展性があり、「何かあるかも！」という気持ちになれるところ。

いで ちくさ
井出 千種さん
観光プロモーション・マーケティング活動支援員



●出身/神奈川県
令和3年5月に着任。観光を通じた地域活性化を目指し、町の製品やサービスを全国的に広めるための仕組み作りをしています。
川湯ビジターセンター裏手のアカエゾマツの森の散策を再開したほか、センター内にアカエゾマツの精油などを取り扱うショップをオープン。夏には町内の中学生や町民の方を対象とした森林講座を開催し、魅力を伝えました。これらの取り組みの集大成としてガイドマップを作成し、アカエゾマツの森に「五感で楽しむ」散策路として新たな視点を加えました。

今後は、アカエゾマツの森に続き川湯の森や二伏の森の魅力を発信していくほか、取得した木育マイスターの資格を生かし木工のワークショップを開催していきます。

Q.弟子屈町を選んだ理由は？

手付かずではない、守られた自然に引かれました。暮らし始めてからも新たな発見が尽きません！

育児休暇取得中の隊員



いきなが え み こ
生永 絵美子さん 福祉活動包括支援員

●出身/東京都
令和2年6月に着任。福祉領域の課題解決に向けた活動をしています。母子、外国人、高齢者への相談対応のほか、多世代交流の場づくりなどに取り組んでいます。4月より活動に復帰し、臨床心理士の資格を活かした会議・介護・家族支援、子育て支援の充実、多世代の集いの場の創出などに引き続き取り組んでいます。

活動報告会の様子

活動報告会には町民の方や町外から81人が来場しました。
報告はポスターセッション方式で実施し、来場者はそれぞれ興味のある活動について真剣に報告を聞いていました。その場で協力隊員と会話や質問をすることで、活動への理解が更に深まったようでした。

各隊員の報告を受けて

徳永哲雄 町長

1年を通して取り組んだことや次への目標を聞き、皆さんの熱意が伝わってきました。これからも町のいろいろなものに付加価値を付け、皆さん自身の個性も伸ばして欲しいと思います。



会場の様子

こしま も え
小島 萌さん 移住対策支援員



●出身/神奈川県
令和4年5月に着任。地域の活性化に向けた移住促進と空き家の利活用について取り組んでいます。
移住促進では、SNSを利用した情報発信と、相談しやすい場づくりとして移住専用公式ラインを設置。全部で移住相談134件、移住体験プログラム10件の実施に繋がりました。また定住後の支援として、町民の方と移住者の交流を促進する「町民×移住者交流イベント」を開催しました。空き家の利活用では、町内の空き家調査を行い161軒の空き家を見つけ、所有者の方へ利活用のアンケート調査を実施しました。
今後は、住宅不足問題の解決に向けた取り組みと、引き続き交流イベントの開催などを通して、移住・定住促進に取り組んでいます。

Q.町の魅力はどこだと思いますか？

人が温かいこと。外から来た人もすぐ受け入れられるので、誰もが暮らしやすい環境だと思います。

よこやま だ り
横山 大理さん 地場産品(果樹)栽培普及支援員



●出身/北広島市
令和3年11月に着任。地域資源を活かした地場産品(果樹)の普及・開発のための活動を行っています。
既存のハウスマンゴーについての管理支援と、ハウスレモンほか香酸かんきつ類の実証栽培を行いました。マンゴーは、6月から12月まで時期をずらしながら合計1万3000個収穫しました。レモンほか香酸かんきつ類はレモン、スダチ、ユズなどの実証栽培を昨年度から継続して行いました。
今後は、マンゴーのさらなる品質向上と安定生産のための栽培技術支援と、香酸かんきつ類の実証栽培を通し太陽や温泉熱を生かした新しい果樹の地場産品化に取り組んでいます。

Q.実際に弟子屈町に暮らしてみたいかがですか？

住みやすい！特に冬は晴れの日も多く、雪も少ないのでうれしいです。毎日温泉にも入って、仕事の疲れも癒されます。